

地域医療 関心持って

夏休みを利用して県内の診療所で地域医療の実習に参加した医学生たちが、草津市内のホテルで成果を報告した。

県内出身の自治医科大学(栃木県)卒業生でつくる「さざなみ会」(会長、花戸貴司・永源寺診療所長)が、医学生に地域医療に関心を持ってもらうと昨年から開催。滋賀医科大学(大津市)から3人、自治医科大学から9人の計12人が、

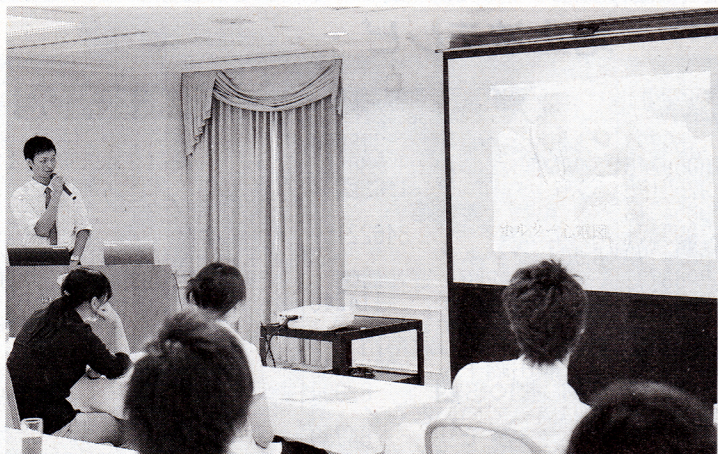
滋賀医科大生ら12人実習

5診療所で2〜3日間の実習に参加した。

永源寺診療所(東近江市)で実習を行った滋賀医科大4年細井麻里さん(22)は、患者の家を往診で訪れた際、「花戸先生を見て、介護している奥さんが、ほっとしているのが印象的だった」とし、「安心感を与えるのが仕事」という花戸医師の言葉がとても心に残ったと話した。

石部医療センター(湖南市)で実習を行った自治医科大学1年八坂寛久さん(24)は、内科医1人が、外来で1日100人以上を診察していることに驚きながらも、「患者が満足して帰っていく様子が印象的だった」と振り返った。

同様の取り組みは全国的にも少なく、花戸医師は「地域医療に携わる医師がどのような働いているのか、その姿をしっかりと見てもらい、地域医療を志す学生を増やしていければ」と話していた。



実習の様子を説明する医学
生(草津市西大路町)

「さざなみ会」企画 「患者の満足する姿印象的」